



TITLE:

変異研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

野澤, 謙; 庄武, 孝義; 和田, 一雄; 峰澤, 満

CITATION:

野澤, 謙 ...[et al]. 変異研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1987, 17: 20-21

ISSUE DATE:

1987-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163753>

RIGHT:

National Park, E. Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 23-28.

学会発表

- 1) 川村俊蔵 (1986): メンタウエイヤセザル *Presbytis potenziani* の社会と音声の位置づけ。第2回日本霊長類学会「アジアの真猿類の研究 川村・鈴木」。
- 2) 鈴木 晃 (1986): 東カリマンタン・クタイ国立公園における霊長類の分布とオランウータンの社会・生態学的研究。第2回日本霊長類学会「アジアの真猿類の研究 川村・鈴木」。

変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤 満

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学研究

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二¹⁾

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル44群、総個体数約2,600頭の血液試料について、35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。また、新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた。これらデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

2) *Macaca* 属サル系の系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から材料を採集し、前項1) 同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分かれ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。61年度には、ミトコンドリアDNAの多型を標識にしてマカク属3種の系統

関係を推定し公表した。

3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。61年度にはネパールにおいて海外調査を行った。

4) *Cercopithecus* 属サルの遺伝的分化に関する研究

庄武孝義・野澤 謙・早坂謙二

60年度の海外調査によりカメルーンにてグリベットモンキーとパタスモンキー、エチオピアにてグリベットモンキーの資料を収集したのでこれまでに得られている資料と合わせて *Cercopithecus* 属サルの地域分化、亜種分化、種分化を遺伝距離でもって定量化し公表した。

5) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰澤 満

61年度、ボリビアおよびブラジルにおいて血液試料を入手した。これらの試料にもとづいて核型およびその変異の検索を行っている。電気泳動法による血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異の検索を合わせて行い、新世界ザルの系統相互関係の解明を試みている。

6) キヌザル科のキメラの遺伝学的研究

峰澤 満

キヌザルにみられる血液および生殖細胞のキメラの遺伝学的解析を行いつつある。

7) 中国黄山でのチベットモンキー調査

和田一雄

1986年8月から、安徽省においてチベットモンキー (*Macaca thibetana*) の分布調査、黄山の群れの泊まり場、運動時の社会調査を行っており、現在も続行中である。

論文

- 1) Hayasaka, K., Kawamoto, Y., Shotake, T. and Nozawa, K. (1986): Probability of paternity exclusion and the number of loci needed to determine the fathers in troop of macaques. *Primates*, 27: 103-114.
- 2) Hayasaka, K., Horai, S., Shotake, T., Nozawa, K. and Matsunaga, E. (1986): Mi-

tochondrial DNA polymorphism in Japanese monkeys, *Macaca fuscata* Jpn. J. Genet., 61: 345-359.

- 3) Ishida, T., Yamamoto, K. Shotake, T., Nozawa, K., Hayami, M., and Hinuma, Y., (1986): Field study on the infection of human T-cell leukemia virus among African primates. Microbiol. Immunology, 30: 315-321.
- 4) 天野 卓・並河鷹夫・庄武孝義・H.W. Cyril (1986): スリランカにおける水牛の血液蛋白多型。在来家畜研究会報告, 11:117-128.
- 5) Wada, K., Chenpei Xiong and Qishan Wang (1986): On the distribution of Thibetan and Rhesus monkeys in southern Anhui, China. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5:79-94.

総 説

- 1) 野澤 謙 (1986): 東および東南アジア在来家畜の起源と系統に関する研究。在来家畜研究会報告, 11:1-35.
- 2) 野澤 謙 (1986): 哺乳動物の遺伝的変異性と集団構造。今堀・木村・和田編“統分子進化入門” pp57-82, 培風館。

研究報告・その他

- 1) 峰澤 満 (1986): 新世界ザルの系統と分化。霊長類研究, 2:30-35.
- 2) 峰澤 満 (1985): 新世界ザルの種分化と氷河期の森林の退縮。モンキー, 29:28-34.
- 3) 峰澤 満, 後藤俊二, 松沢哲郎, 東 滋 (1986): サル類の学術利用の実状に関するアンケート調査。霊長類研究, 2:55-65.
- 4) 和田一雄 (1985): チベットモンキーの分布について。モンキー, 29:6-13.
- 5) 和田一雄 (1985) チベットモンキーの生態。モンキー, 29:14-18.

学会発表

- 1) 庄武孝義・早坂謙二・大澤秀行・野澤 謙 (1986): パタスモンキーとサバンナモンキーの遺伝的変異性。第40回日本人類学会(福

岡)。

- 2) 早坂謙二・宝来 聡・庄武孝義・野澤 謙・松永 英 (1986): ミトコンドリアDNAからみたマカク属3種の系統関係。第40回日本人類学会(福岡)。
- 3) 早坂謙二・宝来 聡・庄武孝義・野澤 謙・松永 英 (1986): ニホンザルのミトコンドリアDNAの制限酵素による解析。第2回日本霊長類学会(名古屋)。
- 4) 竹下 修・下元美佳・庄武孝義 (1986): シンオザル (*Macaca silenus*) ヘモグロビンのアミノ酸配列。第40回日本人類学会(福岡)。
- 5) 峰澤 満・原田正史 (1986): 中央ボリビア産アカホエザル (*Alouatta seniculus sara*) の細胞遺伝学的研究。第2回日本霊長類学会(名古屋)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・星野次郎¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄・星野次郎

西アフリカ・カメルーン国南部の熱帯多雨林においてマンドリルの採食生態、コミュニケーション、社会構造の研究が継続中であり、さらに同所的に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。持ちかえった資料の分析については餌植物の分布様式と、サルによるホームレンジの利用などの解析が進められ、異種のサルによる混群現象の要因の解明をめざしている。

同国北部の乾燥サバンナにおいてはパタスモンキーの調査を行っている。パタスモンキーは単雄群型の社会をもち、その生活様式はサバンナに適応していると考えられている。現在、その社会変動とくにリーダー雄の交代のメカニズム、および採食生態からみた乾燥地適応の研究を進めている。さらに、同所的に生息するサバンナモンキーや多雨林の種との生活様式の比較によって、霊長類各

- 1) 非常勤講師